

緑肥作物による丹後国営開発農地の土づくり

農林センター 丹後農業研究所

要旨

丹後国営開発農地の秋冬野菜において、前作にソルゴーを栽培し土づくりを行うと、全炭素量や有効孔隙が増加し、秋冬野菜の収量が約20～35%増加する。土づくり効果の高い緑肥作物として「ラッキーソルゴー」及び「メートルソルゴー」が有望である。

成果の概要

「ラッキーソルゴー」及び「メートルソルゴー」は収量（すき込み量）が多く、土壌の物理性・化学性（全炭素や有効孔隙）が改善した。（表1）

「ラッキーソルゴー」をすき込むことで、秋冬野菜の生育が向上し、長ダイコン等秋冬野菜の収量が約20～35%増加する。（図1）

表1 各緑肥作物の収量及び土壌に及ぼす影響

緑肥作物	収量		土壌変化	
	乾物重 (g/m ²)	全炭素 (%)	有効孔隙 (pF1.5～2.7)	
緑肥栽培前	-	0.72	3.7	
緑肥作付け無し	-	0.58	7.1	
ラッキーソルゴー	1340	1.05	12.2	
緑肥用ソルゴー	845	0.98	11.9	
メートルソルゴー	1236	1.36	11.8	

注) 播種:6/5、収量調査:7/22

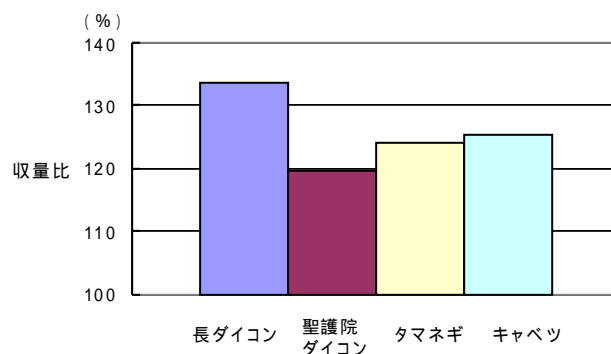
施肥量(kg/10a):N 6.3 - P₂O₅ 1.5 - K₂O 5.1

図1 ラッキ - ソルゴーすき込みによる秋冬野菜の収量増加程度

注) 図は緑肥をすき込まない場合を100とした収量比を現す

(問合せ先: 0772-65-2401)